

チャイナ・プラスワンとしてのインドネシア : 繊維産業・伝統工芸(中部ジャワ)を中心として

著者名(日)	平井 郁子
雑誌名	大妻女子大学家政系研究紀要
巻	52
ページ	53-60
発行年	2016-03-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1114/00006341/



チャイナ・プラスワンとしてのインドネシア ― 繊維産業・伝統工芸（中部ジャワ）を中心として ―

平井郁子
大妻女子大学短期大学部家政科

Indonesia as China Plus One ― Textile Industry and Traditional Craft (Central Java) ―

Ikuko Hirai

Key Words: インドネシア (Indonesia)、アセアン (ASEAN)、チャイナ・プラスワン (China plus One)、人口 (Population)、失業率 (Unemployment rate)、バティック (Batik)

要旨

日本の繊維産業は過度の中国一極集中を避ける観点からチャイナ・プラスワンを求め、ASEAN 諸国を開拓してきた。中でもインドネシアは有力候補とされ、実際にインドネシアに進出している会社も多い。なぜ、インドネシアがチャイナ・プラスワンとして重要視されるのか、その理由と今後の課題を次に示した。

1) チャイナ・プラスワンとして重要視される理由
一番大きな理由は、大きな海に面した国土と世界第 4 位と言われる人口である。ここから豊富な労働力いわゆる『人口ボーナス』や、消費力が生み出される。そして、豊富な資源の供給地でもある。労働集約型産業である繊維産業にとって大変魅力的である。

2) 今後の課題と展望
インフラの整備、技術者の養成、情報網の整備などが大きな課題である。さらに生活習慣、宗教（イスラム教）の違いがあげられる。これらのことから繊維産業において今後、教育水準を上げ技術者の養成などをすることにより、人口ボーナスを最大限に利用できると考えられる。また、国を挙げて伝統工芸であるバティックの後継者を教育し、伝統に加え新しいバティックを生み出そうと、繊維産業に力を入れていることも見逃せない。

1. はじめに

近年、中国、ベトナムに次いでインドネシアから日本への繊維製品の輸入が伸び、重量、金額ベース¹⁾ともに増加が続いている。

中国の労働コストの上昇、中間層の増加などを背景に、低い労働コストの比較優位として ASEAN への生産シフトが続いている。中でもインドネシアは、特に人口が多く 2 億 5,000 万人と豊富な労働力があり、6% を超える経済成長率¹⁻³⁾が続いている。紡績や織り・編み、染色加工、縫製と設備が整っているなど、一貫したモノ作りができる数少ない国である。また、生産拠点としての魅力に加え、中間層の拡大により、巨大マーケットとしての魅力も高まってきている。今後も拡大が予想されるインドネシアの繊維・アパレルファッションの現状と展望を検討する。

さらに、インドネシアはバティックという世界的な伝統工芸の発祥地でもある。その伝統工芸をどう伝承していくのか、昔ながらの伝統を受け継ぐ工房、新しいバティックを創造しようと国を挙げて取り組んでいる大学教育についても検討する。

2. 調査方法

インドネシア繊維産業の生産、流通、教育の実状と労働賃金、為替レート、国際競争力、GDP、繊維製品の貿易推移などの文献、統計資料をもとにインドネシアの繊維産業の現状を検討する。また、2003 年 3 月（上海・蘇州）、2006 年 3 月（北京・青島）、2008 年 3 月（上海）、2009 年 3 月（ホーチミン）、2014 年 3 月（ハノイ）、2015 年 3 月（ジョクジャカルタ・ソロ）、2015 年 8 月（ホーチミン・ホイアン）と、(社)日本繊維学会被服科学研究委員会主催『海外研修』、(一社)日本衣料管理協会主催『TA ブラッシュアップ講座』等に参加し、中国、

ベトナム、インドネシアの繊維産業の現場視察による調査も検討資料として加える。さらに本研究では、チャイナ・プラスワンとしてのインドネシアの繊維産業の現状から今後の展望を検討したので報告する。

3. 調査結果および考察

3-1 インドネシアの小史

『インドネシア』は1945年8月17日の独立宣言において、『オランダ領東インド』から正式な国号となった。国土は約189万平方キロメートル（日本の約5倍）、人口は約2.49億人（2013年インドネシア政府統計）、首都はジャカルタ（人口997万人：2013年インドネシア政府統計）、民族はマレー系（ジャワ、スンダ等約300種族）、主言語はインドネシア語、宗教はイスラム教88.1%、キリスト教9.3%（プロテスタント6.1%、カトリック3.2%）、ヒンズー教1.8%、仏教0.6%、儒教0.1%、その他0.1%（2010年インドネシア宗教省統計）となっている。インドネシアは地理的に海上における東西貿易の要衝に位置し、古来から多くの外来文化の波に洗われ、その影響をこうむってきた。紀元前2世紀ごろから貿易を通じ徐々に南インドからヒンドゥー教、仏教文化を受入れた。ついで11世紀ごろインドのグジャラート地方の商人たちにより、イスラム文化がもたらされている。文化受容のパターンは西欧文化も同様で、西欧民主主義や共産主義の思想は、オランダ植民地支配に抗する民族独立運動への有力な武器とされた。さらに西欧思想は伝統文化と融合されていった。2004年民主主義を確立し、政治体制の安定化を確保した。

3-2 インドネシアの経済状況

2014年のインドネシア政府統計局のデータより、2013年のインドネシアGDP（名目）8,696億ドル、1人当たりGDP 3,500ドル、経済成長率（実質）5.8%、物価上昇率8.4%、失業率6.3%（2013年）約2,100万人（完全失業者及び求職中の総計）となっている。インドネシアの失業率はASEAN諸国の中でも高い。人口構成要素⁴⁾からみるとインドネシアの人口ボーナス期間は1970年～2030年頃まで続くとされ、近隣諸国の中でも長いとされているため、生産年齢人口に対して、就業の機会を与える必要がある。また、2013年の日本の経済援助実績は、無償資金援助協力10.6億円、有償援助協力822億円、技術協力60.1億円（JICA実施分）である。主

要援助国は、日本52.5%、豪州11.7%、フランス11.5%、米国8.7%、ドイツ6.1%の順となっている（2010年OECD／DAC）。為替レートは、1ドル＝約12.264ルピア（2014年12月1日インドネシア中央銀行）である。

3-3 インドネシアの貿易

2013年の総貿易額は、輸出1,825.5億ドル、輸入1,866.3億ドル（政府統計）であり、主要貿易品目は、輸出（石油・ガス19.5%、鉱物性燃料13.9%、動・植物油11.2%、繊維7.2%）、輸入（石油・ガス22.2%、一般機械機器14.8%、機械・電気部品9.9%、繊維4.6%）である。

主なインドネシアの繊維品・アパレルの貿易相手国を表1に示す。表1より繊維品・アパレル輸出は北米42.0%（内アメリカ39.7%）、東アジア23.2%（内日本8.9%）、欧州21.8%（内EU17.8%）、繊維品の輸入は中国、韓国、日本など東アジアが76.1%を占めている。

また、原油・天然ガス・石炭などのエネルギー資源、鉱物資源が豊富であるため、『脱工業化』いわゆる『オランダ病』を発症する可能性が懸念される。

表2に化合成繊維の主な国の生産量を示す。化合成繊維の生産量は中国、インド、台湾、アメリカ、インドネシアの順となっている。インドネシアは資源が豊富であるため、石油化学工業の発展も今後は見込まれる。

インドネシアの繊維製品の輸出入の割合は、他の貿易品目の割合より少ないが、日本への繊維製品の輸出量は着実に伸びている。

（1）インドネシアからの繊維製品の輸入

表3に日本の2014年1月～4月の衣類輸入量を示す。インドネシアからの衣類輸入は重量ベースで前年同期比16.5%増11,820t、円ベースで25.1%増の317億6,800万円である。インドネシアからの輸入が増えているのは、大手SPA（製造小売業）や、郊外型専門店が調達を強めていることが大きいと考えられる。日系商社も縫製工場への投資に積極的で、ニット、布帛両方で生産が充実してきたことによるものと考えられる。

3-4 中部ジャワの地域概要

（1）ジョクジャカルタ

中部ジャワに位置し、面積32.5km²の都市で、クラトン（王宮）を中心に発展した都市である。インドネシアの古都として独自の文化を残す観光地でもある。伝統産業としてジャワ更紗（バティック）

表 1. 主なインドネシアの繊維品・アパレルの貿易

単位：100 万ドル

		2005	2010	2011	2012	2013	2013(輸入)
全世界	1)	8,854	11,603	13,684	12,869	13,056	8,521
	2)	4,900	6,880	8,117	7,590	7,759	—
東アジア	1)	1,466	2,355	3,028	3,214	3,494	6,487
	2)	289	496	835	1,079	1,343	—
日本	1)	486	643	1,016	1,095	1,208	333
	2)	121	182	343	487	646	—
欧州	1)	2,039	2,724	3,308	2,865	2,879	317
	2)	1,261	1,676	2,030	1,735	1,651	—
EU	1)	1,768	2,166	2,588	2,184	2,150	249
	2)	1,213	1,594	1,933	1,640	1,563	—
北米	1)	3,264	4,575	5,066	4,542	4,542	452
	2)	2,842	4,237	4,693	4,182	4,199	—
アメリカ	1)	3,072	4,313	4,757	4,274	4,267	433
	2)	2,713	4,045	4,457	3,977	3,990	—

1) 繊維品輸出、2) アパレル輸出

出所：インドネシア通関統計

表 2. 化合繊維の生産量

単位：1,000 トン

国	品種	2005	2010	2011	2012	2013
中国	化合繊維 (S+F)	17,153.6	29,051.8	32,821.8	37,097.1	39,990.0
インド	化合繊維 (S+F)	2,144.5	3,660.9	3,863.2	3,996.3	4,183.3
台湾	化合繊維 (S+F)	2,702.3	2,340.5	2,158.3	2,064.6	2,072.6
アメリカ	化合繊維 (S+F)	2,729.1	1,873.2	1,845.0	1,922.9	2,013.3
インドネシア	化合繊維 (S+F)	1,317.0	1,553.6	1,616.4	1,654.9	1,800.7
日本	化合繊維 (S+F)	1,022.0	701.8	704.0	670.2	656.9

S：ステープル、F：フィラメント

出所：Fiber Organnon

が名高い。また、市内北部には大学など高等教育機関が集中するため、学生の町としても有名である。周辺の農村部は米の三期作を行う穀倉地帯で、農民の 90% は零細農家が多い。

(2) ソロ (スラカルタ)

中部ジャワ北東部に位置する面積 44.03 km² の都市である。18 世紀にマタラム王家がソロへ移ったことでイスラム王国の宮廷文化が開花したジャワの伝統文化の中心地である。

3-5 ソロの繊維工場

2015 年 3 月 ソロ にある PT.BENGWAN SOLO GARMENT INDONESIA と PT.DAN LIRIS の 2 つの工場を視察した。この 2 つの工場を例にインドネシアの繊維工場としてのチャイナ・プラスワンを考察した。

(1) PT.BENGWAN SOLO GARMENT INDONESIA

日鉄住金物産 (株) の関連会社である。資本金 150 万 USD (日鉄住金物産：99%、日鉄住金物産イ

表 3. 2014.1～4 日本の衣類輸入量 (速報値)

() 前年度同期比伸び率

順位	国・地域	数量 (t)	シェア (%)	金額 (100 万円)	シェア (%)
1	中国	248,243 (▼0.6)	75.9	720,426 (▼0.6)	71.5
2	ベトナム	25,403 (15.6)	7.8	83,525 (21.5)	8.3
3	インドネシア	11,820 (16.5)	3.6	31,768 (25.1)	3.2
4	イタリア	711 (▼9.8)	0.2	26,182 (2.9)	2.6
5	バングラデシュ	9,616 (21.4)	2.9	21,536 (25.6)	2.1
6	ミャンマー	6,553 (45.9)	2.0	18,397 (65.5)	1.8
7	タイ	4,735 (16.6)	1.4	17,893 (21.3)	1.8
8	カンボジア	4,913 (94.4)	1.5	14,792 (114.8)	1.5
9	インド	3,242 (13.5)	1.0	13,056 (8.1)	1.3
10	米国	533 (▼13.5)	0.2	6,831 (▼1.3)	0.7
	ASEAN	57,282 (22.7)	17.5	176,659 (30.6)	17.5
	EU	1,329 (▼3.4)	0.4	38,831 (7.1)	3.9
	全世界	326,916 (▼1.7)	100.0	1,007,573 (5.1)	100.00

順位：合計金額／レート (2014.1～4) 1 ドル = 102.47 円

出所：日本貿易統計

インドネシア現地法人：1%) で、2001 年に設立された。イオン、良品計画、デズニー認定工場として、郊外店、量販店、専門店向け紳士衣料の縫製工場で、市場は対日 100% である。生産アイテムは形態安定性ドレスシャツ、ビジネススーツ、ジャケットなど、スーツ 9 万着／年、シャツ 168 万枚／年を生産している。シャツの縫製の様子を写真 1 に示す。敷地面積は 22,000 m²、シャツ工場 (裁断 5 ライン、縫製 379 台、仕上げ 68 台)、スーツ工場 (裁断 2 ライン、縫製 260 台＜内ジャケット 170 台、パンツ 90 台＞、仕上げ 47 台) となっている。従業員数は 1,006 名 (2014.12 現在)、勤務時間は平日 8:00～16:30、土曜日 8:00～12:30 である。生地はインドネシアに進出している日系紡績会社 4 社から調達、設備は全て日本から持ち込み、技術管理は日本人が常駐し、日本式徹底した品質管理を行っている。

日鉄住金物産 (株) は、中国の 4 工場を閉鎖して、インドネシアに合わせて 5 工場を持つ。中国の工場を閉鎖した大きな理由は、人件費の上昇により、日本向けの安くて良い製品ができなくなったためである。賃金は平均 200 ドル前後、高卒は工場のライン、大卒は事務や貿易のスタッフとして仕事を



写真 1. PT.BENGWAN SOLO GARMENT INDONESIA 縫製工場の様子 (2015.3 撮影)

している。この工場の従業員は、高卒以上であるとのことである。

表 4 に BASIC SALARY LIST、表 5 に人口と失業率の関係、図 1 に日系企業の賃金水準を示す。表 4 よりインドネシアの賃金は安く、中でも中部ソロの 2015 年の月収は、約 12,224 円で同じインドネシアのジャカルタの月収の 1/2 である。図 1 の日系企業の賃金水準を見ても、製造業の作業員の賃金は、182 ドルでベトナムの 107 ドルより高いものの、非

表 4. BASIC SAIARY LIST (UMK)

単位：1 ルピア = 0.01 円

Year	2010	2011	2012	2013	2014	2015
DKI Jakarta	1,118,009	1,290,000	1,529,150	2,200,000	2,440,000	2,700,000
Bandung City	1,118,000	1,188,435	1,271,625	1,538,703	2,000,000	2,310,000
Surabaya	1,031,500	1,115,000	1,257,000	1,740,000	2,200,000	2,710,000
Solo City	785,000	826,252	864,450	915,900	1,145,000	1,222,400

出所：PT.Nissenken indonesia

表 5. 人口と失業率の関係

2013 年

	インドネシア	マレーシア	ベトナム	フィリピン	タイ
失業率 (%)	6.3	3.1	3.6	7.1	0.1
人口 (万人)	24,900	2,995	9,250	9,234	6,593

出所：外務省 [ODA] 広報・資料

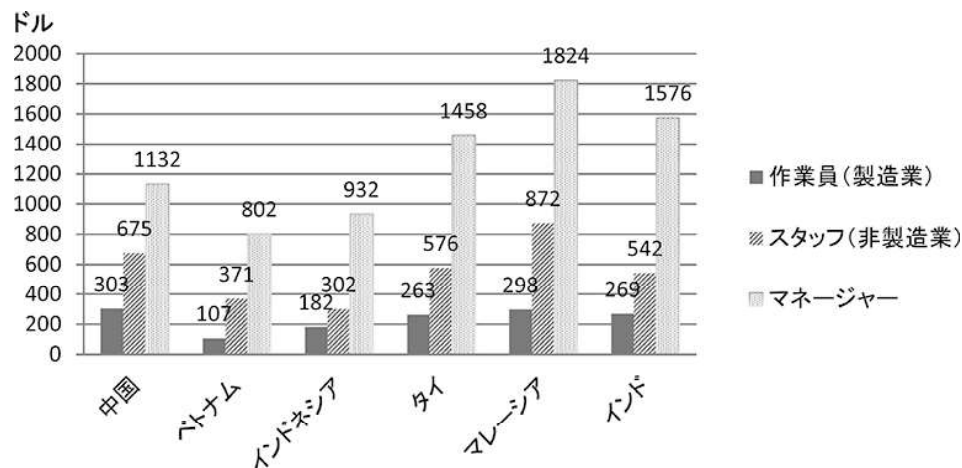


図 1. 日系企業の賃金水準 (2010 年)

出所：東海染工 (株) インドネシア

製造業のスタッフの賃金は、他の日系企業の中でも最低の 302 ドルとなっている。これは、就学率が関係している。外務省提供、インドネシア共和国国家教育省資料 2013 年度統計より、就学率は、小学校 95.71%、中学校 78.43%、高等学校 58.2%、大学 28.57% となっている。中学校は 1994 年に義務化がスタートしたばかりで、100% に至っていないのが現状である。前述したようにインドネシアは人口と失業率が近隣諸国に比べて高い。『人口ボーナス』時期はすでに始まっているが、就労年齢の失業率も高くなっている。街中にはストリートチルドレンと

言われる子供たちが溢れている。

(2) PT.DAN LIRIS

東海染工 (株) の協力会社であるが、資本関係はない。1974 年に BATIK KERIS (1928 年にパティックの家内工房をつくり、1971 年 BATIK KERIS 設立) の専用メーカーとして PT.DAN LIRIS を設立、その後 2004 年 BATIK KERIS を別会社として分離した。現在、敷地面積 555,000 m² (東京ドーム約 12 個分)、従業員数 10,000 名 (DANLIRTA 社: 7,500 名、子会社 2,500 名) である。PT.DAN LIRIS は、紡績、織布、染色加工、縫製までできる一貫工場を

持ち、子会社には独自の店舗販売・企画・製造会社、インドネシア独自の雑貨などの製造・販売会社、バービー人形の服の縫製組立製造会社などを持つ。紡績は、紡績機数 120,000 錠（綿 100% カード糸、コマ糸、ポリエステル綿の混紡糸）を持ち、インドネシア国内、中国に販売している。織布は、織機数 1,000 台（シャトル織機、AIRJET 織機）、生産可能数量 5,000,000 m / 月、インドネシア国内、ヨーロッパ、中国に販売している。染色加工は、前処理工程機 2 レンジ、連続染色機 3 機、仕上げ機 2 機、生産可能数量（染色 1,500,000 m / 月、PRINT（捺染）1,000,000 m / 月、インドネシア国内、ヨーロッパに販売している。品質を保つため、東海染工インドネシアが品質管理をしている。縫製品は、ミシン台数 2,500 台、生産可能枚数 800,000 枚 / 月、取扱い製品はシャツ、ブラウス、ワンピースなど、販売先は全て輸出でヨーロッパ 28.6%、オーストラリア 22.84%、日本 20.31%（20~30 万枚）、アメリカ 16.77%、その他（中東、東南アジア、南アフリカなど）である。日本向けは、東海染工が販売窓口になっている。東海染工のオーダーのものの 90% は東海インドネシアで生産した生地を使用、その他は東海の日本工場、タイ工場から供給している。また、PT.Nissenken Indonesia が品質検査をしている。写真 2 に示すように、PT.DAN LIRIS 工場は、大規模な工場である。ここでも、賃金は表 4 に示すように、平均 12,000 円 / 月ということである。インドネシアの賃金上昇率は、賃金の低い地域ほどアップ率が低く、地域により賃金格差が大きくなっている。1 日の生活費が 2 ドル未満の貧困層は、インドネシアには約 51%（2009 年）と周辺国と比較してもかなり高い水準となっており、インドネシアの大きな課題となっている。



写真 2. PT.DAN LIRIS 工場の様子 (2015.3 撮影)

3-6 インドネシアの伝統工芸教育

訪問したインドネシア国立芸術大学ジョクジャカルタ校 (Institut Seni Indonesia Yogyakarta-Indonesia) を例にインドネシアの繊維教育を考察した。インドネシア国立芸術大学ジョクジャカルタ校は、旧制の美術、西洋音楽、舞踊の専門学校が統合再編され、1984 年に国立芸術大学として設立された。インドネシアには、国立総合芸術大学として 3 校の ISI (Institut Seni Indonesia) があり、ジョクジャカルタ校は其中で最大規模の 3 学部 (Visual Arts, Performing Arts, Recording Media Arts) を有する芸術系高等教育機関で、全学部博士課程が置かれている。

Visual Arts 学部に Fine Arts, Craft, Design 学科があり、Craft 科は、更に木材、金属、バティック、革、セラミック・陶器と細かく専攻に分かれている。大学の方針には、「ジョクジャカルタは、世界のバティックの町であり、専門家を育ててゆく使命がある。文化的背景、アイデンティティーを学ぶようなシステムを作っている。」という言葉どおり、どの学科を学ぶにしても、バティックは必修科目とされている。また、「IT を取り入れ、スキルアップさせてゆきたい。最新トレンドもしっかり学び伝統を超えたもの、新しい現代的なものを作っていきたい。」という大学の方針である。教育システムは充実し、3 年生の後期は現場でのバティックの作品づくり、前期・後期の休みにはジョクジャカルタ以外のバティックを調べに行く研修、バティックデザインコンテストへの参加、バティックドレスを着用してカーニバルへの参加、ジョクジャカルタファッション週間への参加など、積極的に作品を発表し、学生の力を引き出す工夫もしている。更に、卒業制作では、バティックの歴史や他の地域のバティックなど、今まで学んだものを活かして作品を作らせるということで、新しいバティック作品の創造⁴⁾に力を入れている。現代的デザインの中にモチーフとしてバティックを取り入れた素晴らしい学生の作品を見ることができた。写真 3 に学生のバティック制作の様子を示す。

インドネシアの繊維産業は、チャイナ・プラスワンとして急成長をとげているアパレル産業の生産地としての顔と、ユネスコから世界無形文化財に認定された伝統的なバティックの伝統産業としての顔に分けられる。これらインドネシアの繊維産業を支える人材育成の取組をしているのがインドネシア国立芸術大学ジョクジャカルタ校 (Institut Seni Indone-



写真3. ISI Yogyakarta-Indonesia 学生のバティック制作の様子 (2015.3 撮影)

sia Yogyakarta-Indonesia) である。

この他、Dalem Hardjonegaran (パネンバハン・ハルジョナゴロ) のバティック工房や DANAR HADI ANTIQUES BATIK MUSEUM などの視察からバティックがインドネシアの伝統文化であり、国を挙げてバティックを守っていこうとする取り組み、後継者育成の強い国策が感じられた。

4. まとめ

日本の繊維業界は過度の中国一極集中を避ける観点からチャイナ・プラスワンを求め、ASEA 諸国を開拓してきた。中でもインドネシアは有力候補とされ、実際にインドネシアに進出している会社も多い。なぜ、インドネシアがチャイナ・プラスワンとして重要視されるのか、その理由と今後の課題を次に示した。

4-1 チャイナ・プラスワンとして重要視される理由

一番大きな理由は、大きな海に面した国土と世界第4位と言われる人口である。ここから豊富な労働力いわゆる『人口ボーナス』や、消費力を生み出すことができる。そして、豊富な資源の供給地でもある。日本への繊維製品は、安価で品質がよいものでなければならない。人件費が中国の約1/3と安価ということは、労働集約型産業である繊維産業にとって大変魅力的である。また、日本・ASEAN 包括的経済連携 (AJCEP) 協定により日本へ輸出入する際、関税が7%~10% フリーになり日本への輸出入が有利になる。

これらのことから、インドネシアがチャイナ・プラスワンとしての地位を確立し、中国の代わりとして将来が見込める要となりえる国である理由であ

る。

4-2 今後の課題と展望

一つ目は、インフラの整備である。輸送に欠かすことができない道路を広げることや、高速道路などの建設が必要である。

二つ目は、技術者の養成である。工場設備では、修理をする技術者の不足により、メンテナンスに2~3週間もかかる。

三つ目は、情報網の整備である。パターンなどは日本から送っているが、情報機器を使用できる知識、技術が不足している。

生活習慣、宗教の違いがある。ほとんどの従業員がイスラム教である。お祈りが1日5回ある。勤務時間内に夕方2回、休憩をいれてお祈りの時間に行っている。国民性は、まじめな人が多いが、ゆったりとしている。標準時間での標準作業のチェックが必要になる。

上記のことから繊維産業において今後、教育水準を上げ技術者の養成などを行うことにより、人口ボーナスを活かせる有利な位置にいることを最大限に利用できると考えられる。

伝統工芸であるバティックは、国を挙げて教育・伝承をしている。伝統文化と新しい文化の融合により、現代的デザインのバティックが生み出されている。インドネシア人のゆったりとしたそして誠実な気質は日本人には親しみを覚える。ぜひ、日本の良きパートナーになってほしいと考える。

5. 参考文献

- 1) 繊維新聞; 2014.6.12 (2), 日本貿易統計より
- 2) 外務省ホームページ インドネシア基礎データ; Ministry of Foreign Affairs of Japan, Republic of Indonesia.
- 3) インドネシアの基本統計; JETRO, <http://www.jetro.go.jp/world/asia/idn/stat.html>
- 4) 佐藤百合; 経済大国インドネシア, 中央公論新社, 2011.12
- 5) 松本由香; インドネシアのファッションデザイナーたち, ナカニシヤ出版, 2015.3
- 6) 和田, 森, 鈴木; 東南アジアの現代史, 山川出版, 1991.7
- 7) 日本化学繊維協会編集; 繊維ハンドブック 2012, 日本化学繊維協会資料頒布会, 2011.12
- 8) 日本化学繊維協会編集; 繊維ハンドブック 2015, 日本化学繊維協会資料頒布会, 2014.12

Summary

The textile industries of Japan have demanded China plus One from a point of view that avoided excessive overconcentration in China and have developed the ASEAN countries. Above all, Indonesia is considered to be a major candidate, and there are really many companies going into Indonesia. I showed problems and reasons why Indonesia was regarded as important as China plus One.

(1) The reasons why Indonesia regarded as important as China plus One

The biggest reason is the forth population in the world and the country facing the big sea. Abundant workforce so-called “demographic bonus” and consumption power are brought about from these reasons. And it is a supply place of abundant resources. Textiles to Japan must be cheap and good quality. It is very attractive for the textile industries which is labor-intensive industry. Indonesia establishes a position as China plus One and is the pivot that can anticipate as a substitute of China in the future.

(2) The problems and prospects

The first problem is the maintenance of the infrastructure.

The second is the training of the engineer.

The third is the maintenance of the intelligence network.

There are differences in lifestyle and religion. Most employees are Islam.

It is thought that from the above in the future it is available to be at the advantageous position that can keep “demographic bonus” alive by giving high level education in a textile, and training the engineer.

The batik which is the traditional craft is educated and is handed down all over the country.